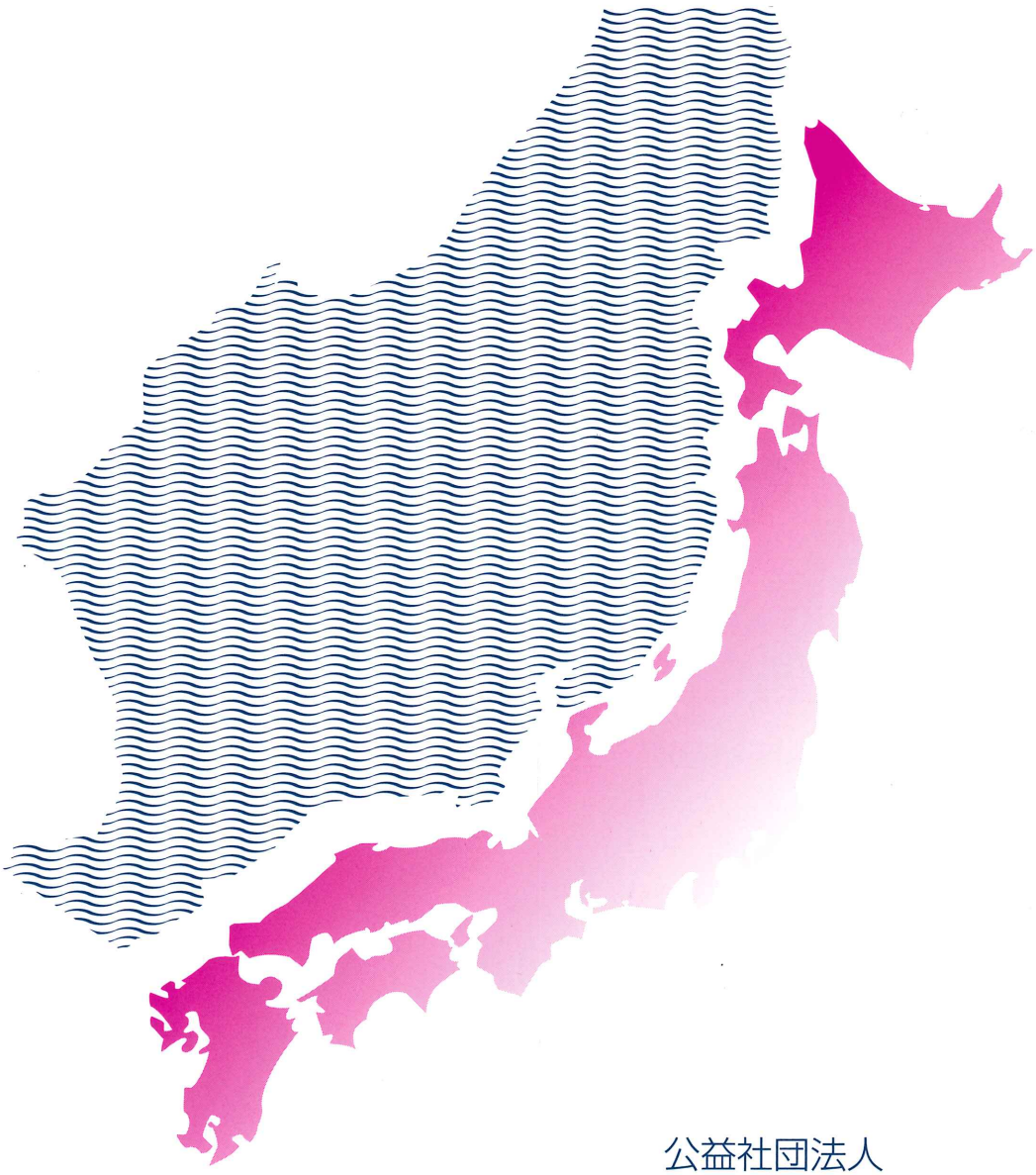
会報

第131号



公益社団法人
日本海海難防止協会

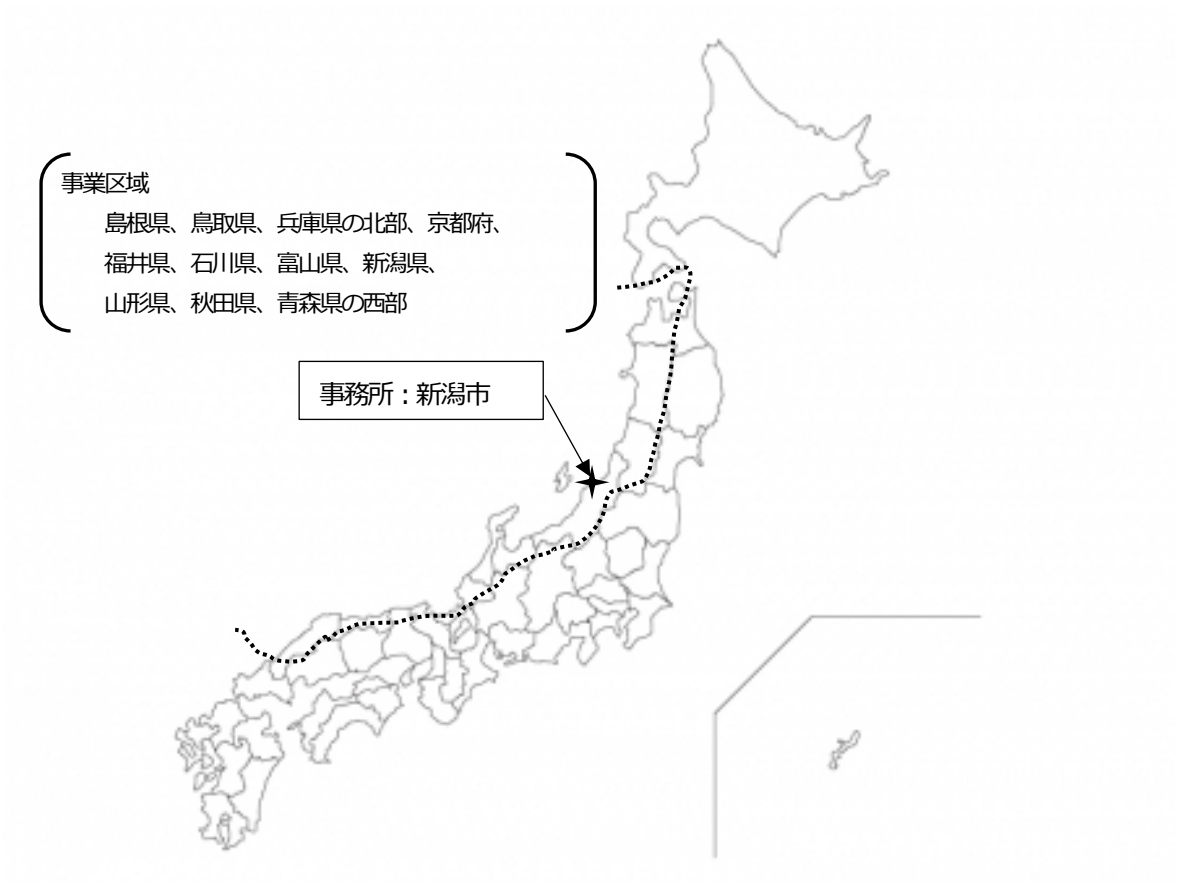
日本海海難防止協会は、本州日本海沿岸(山口県を除く)及び付近水域における、海上交通の安全に寄与するため、次の事業を行っております。

(1) 船舶の航行安全及び海難防止に関する事項の調査研究

(2) 船舶の航行安全に関する教育指導及び情報の提供

(3) 海難防止に関する事項の周知宣伝

(4) その他本協会の目的を達成するために必要な事業



【公益社団法人　日本海海難防止協会が行う事業区域図】

アクセス

○新潟駅(JR 信越線)から

徒歩　約 25 分、ﾀｸｼｰ利用　約 10 分、

ﾊﾞｽ利用　新潟交通　北ふ頭　約 20 分

北ふ頭　停留所下車徒歩約 5 分

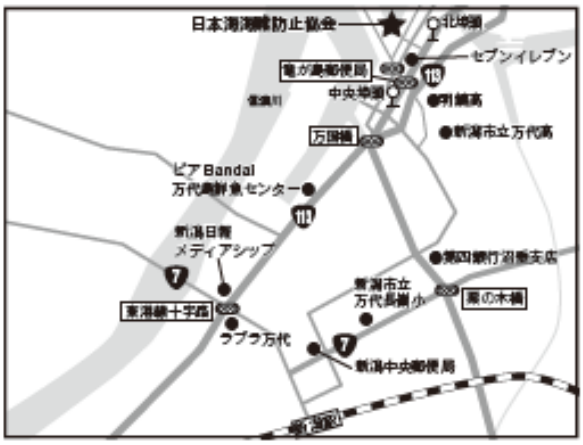
○新潟空港から

ﾀｸｼｰ利用　約 20 分、ﾊﾞｽ利用　北ふ頭　約 20 分

○車

国道 113 号線竜が島郵便局前交差点を左折直進、

信号を一つ通過後右折し約 50m



目　　次

会長年頭の挨拶 1

Ⅰ　事業報告

Ⅰ－１　調査研究 3

１　八峰能代沖洋上風力発電事業計画に係る航行安全調査 3

1-1　第１回委員会 3

1-2　視認シミュレーション実験 4

1-3　第２回委員会 4

1-4　第３回委員会 4

２　日本海主要港湾における錨泊船舶の安全対策に関する調査研究

（新潟港、佐渡島及び直江津港周辺海域） 5

2-1　第１回委員会 5

３　秋田県北部海域における洋上風力発電事業計画に係る航行安全調査 . . 6

3-1　第１回委員会 6

3-2　第２回委員会 7

４　鳥取港港湾計画改訂に係る船舶航行安全対策調査 8

4-1　第２回委員会 8

５　酒田港(本港地区)クルーズ客船入出港に係る航行安全調査 9

5-1　第１回委員会 9

5-2　ビジュアル操船実験 9

5-3　作業部会 10

６　境港港湾計画改訂に伴う船舶航行安全対策調査 11

6-1　第１回委員会 11

７　青森港大型客船入出港に係る航行安全調査 12

7-1　第１回委員会 12

Ⅱ　会　務

Ⅱ－１　業務予定 13

Ⅲ　海の安全情報

Ⅲ－１　青森県の海の津波ハザードマップ..... 14

Ⅲ－２　東北の冬の海　なめんなよ！！～冬期海難防止活動実施中～..... 16

Ⅲ－３　モバイル版「海しる」に落雷位置情報が追加されました..... 18

Ⅲ－４　海図「柏崎港」がリニューアル..... 19

Ⅲ－５　第九管区　海の安全通信　～海難０への願い～..... 20

Ⅳ　寄 稿 欄

奈良「山の辺の道」の三大神社 21

Ⅴ　連 絡 事 項

会員名簿の変更 27

会長年頭の挨拶

代表理事会長 南波 秀憲

新年、明けましておめでとうございます。

2021 年を迎え、皆様にとって明るく素晴らしい一年となることをお祈り申し上げます。

また、常日頃より当協会の運営に格別のご理解とご支援を賜り心から御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと半世紀ぶりとなる東京オリンピック、パラリンピックが盛大に行われ、多くの日本選手がメダルを獲得、華やかな１年となると誰もが予想していたところ、新型コロナウイルス感染が発生し、国外では１月下旬、中国湖北省・武漢市で都市が封鎖され、国内では感染者が乗船したクルーズ船が横浜に寄港、乗客が下船、瞬く間に新型コロナウイルスが世界へ広がりました。

この想像もしていなかった新型コロナウイルス感染症の影響は極めて大きく、その拡大防止のために各種イベントは中止、延期、宿泊施設や飲食店は休業、企業では在宅勤務となるなど、経済活動の基盤となる「人」と「物」の動きが制限され現在も制約を受け、当協会においても３密回避での委員会、電話・メールでの打合せなど非接触型での業務を行っているところです。

昨年 12 月に経済産業省と国土交通省が洋上風力発電の官民協議会において「2040 年の発電能力を最大 4500 万㌔ワットとする目標を決めた。」との報道がありました。再生エネルギーの柱として原子力発電 45 基分相当の規模で、今後政府が各地の適地選定の手続きや送電網確保を主導するほか、技術開発や産業育成も支援し、火力発電を下回る発電コストを実現するとともに企業の参入を容易にするため、風の吹き方や海底の地質の調査、漁業者との調整を政府主導で行う仕組みを構築、2021 年度から実証事業を始めるとのことです。

当協会においても洋上風力発電事業に係る航行安全調査を、2016 年度の岩船沖から始まり、2018 年度２件、2019 年度３件、2020 年度４件と合計 10 件の調査研究を行い、対象海域での航行安全の対策を提案しているところです。今後も事業者からの委託を受け、海上交通の安全を図って参りたいと思っております。

さて今年は丑年、十二支の動物の中で最も動きが緩慢で歩みが遅い丑(牛)の年は、「先を急がず一歩一歩着実に物事を進めることが大切な年」と言われています。

新型コロナもいずれ収束するものと思っており、それまでは引き続き必要な対策を取りながら会員の皆様と共により一層、海上の交通安全に寄与して参る所存であります。

最後に会員各位の更なるご活躍と海上交通の安全を祈念し新年の挨拶といたします。

Ⅰ　事 業 報 告

Ⅰ－１　調査研究

１　八峰能代沖洋上風力発電事業計画に係る航行安全調査

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」
　矢吹　英雄　東京海洋大学　名誉教授
　髙橋　　勝　海上保安大学校　名誉教授
　松田　洋和　一般社団法人日本船長協会　副会長
　高橋　福治　秋田船川水先区水先人会　会長
　西宮　公平　秋田海陸運送株式会社　代表取締役社長
　土岐　静一　日本通運株式会社　秋田港支店　支店長
　（柏屋　　敬　日本通運株式会社 秋田港支店 支店長 人事異動により委員交代）
　與語　奨太　能代運輸株式会社　専務取締役
　藤田　範生　東北電力株式会社　能代火力発電所　所長
　加賀谷　弘　秋田県漁業協同組合　代表理事組合長
　石井　好勝　八峰町峰浜漁業協同組合　代表理事組合長
　齋藤　修市　秋田県小型船舶安全協会　会長
「関係官公庁」
　第二管区海上保安本部　交通部
　秋田海上保安部
　東北地方整備局　秋田港湾事務所
　秋田地方気象台
　秋田県建設部　港湾空港課
　能代市環境産業部　商工港湾課
　八峰町役場　企画財政課

1-1　第１回委員会

(1)　開 催 日：令和２年７月 14 日(火)
(2)　場　　所：秋田市　ホテルメトロポリタン秋田
(3)　議　　題：
　①　洋上風力発電事業計画について
　②　調査・検討の計画について
　③　周辺海域状況について

④　周辺港湾等について
⑤　ウィンドファームの航行安全(視認シミュレーション方案)について

1-2　視認シミュレーション実験

(1)　実 施 日：令和２年８月 12 日(水)
(2)　場　　所：川崎市（株式会社日本海洋科学　シミュレーションセンター）

1-3　第２回委員会

(1)　開 催 日：令和２年９月 24 日(木)
(2)　場　　所：秋田市　秋田キャッスルホテル
(3)　議　　題：
①　ウィンドファームの航行安全(シミュレーション結果)について
②　レーダ映像への影響について
③　洋上風力発電設備等の維持管理について

1-4　第３回委員会

(1)　開 催 日：令和２年 11 月５日(木)
(2)　場　　所：秋田市　秋田キャッスルホテル
(3)　議　　題：
①　ウィンドファームの航行安全について
②　航行安全対策について
③　報告書構成案について

２　日本海主要港湾における錨泊船舶の安全対策に関する調査研究（新潟港、佐渡島及び直江津港周辺海域）

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」

日當　博喜　海上保安大学校　名誉教授
松田　洋和　一般社団法人日本船長協会　副会長
岡本　幹男　新潟水先区水先人会　会長
真保　髙弘　佐渡汽船株式会社　取締役海務部長
木村　一美　新日本海フェリー株式会社　調査役
菅原　裕之　新潟港船舶代理店会　事務局
金子　祐大　直江津港船舶代理店会　事務局
清田　邦之　新潟県漁業協同組合連合会　専務理事

「関係官公庁」

第九管区海上保安本部　交通部
第九管区海上保安本部　海洋情報部
新潟海上保安部
上越海上保安署
佐渡海上保安署
北陸信越運輸局　海事部
新潟地方気象台

2-1　第１回委員会

(1)　開 催 日：令和２年７月 16 日(木)
(2)　場　　所：新潟市　ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟
(3)　議　　題：
　①　調査・研究の計画について
　②　対象港湾について
　③　対象海域の気象・海象について
　④　海難の状況について
　⑤　対象海域の船舶状況（ＡＩＳデータ）について

３　秋田県北部海域における洋上風力発電事業計画に係る航行安全調査

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」

矢吹　英雄　東京海洋大学　名誉教授
髙橋　　勝　海上保安大学校　名誉教授
松田　洋和　一般社団法人日本船長協会　副会長
高橋　福治　秋田船川水先区水先人会　会長
西宮　公平　秋田海陸運送株式会社　代表取締役社長
土岐　静一　日本通運株式会社　秋田港支店　支店長
（柏屋　　敬　日本通運株式会社 秋田港支店 支店長 人事異動により委員交代）
與語　奨太　能代運輸株式会社　専務取締役
藤田　範生　東北電力株式会社　能代火力発電所　所長
佐藤　　優　秋田県漁業協同組合　若美支所　若美地区運営委員長
大髙　光晴　能代市浅内漁業協同組合　代表理事組合長
田中　保則　三種町八竜漁業協同組合　代表理事組合長
齋藤　修市　秋田県小型船舶安全協会　会長

「関係官公庁」

第二管区海上保安本部　交通部
秋田海上保安部
東北地方整備局　秋田港湾事務所
秋田地方気象台
秋田県産業労働部　資源エネルギー産業課
秋田県建設部　港湾空港課
秋田県農林水産部　水産漁港課
能代市環境産業部　商工港湾課
男鹿市総務企画部　企画政策課
三種町　企画政策課

3-1　第１回委員会

(1)　開 催 日：令和２年７月 22 日(水)
(2)　場　　所：秋田市　秋田キャッスルホテル
(3)　議　　題：
①　洋上風力発電事業計画について
②　調査・検討の計画について
③　周辺海域状況について
④　周辺港湾等について

3-2　第２回委員会

(1)　開 催 日：令和２年 10 月７日(水)

(2)　場　　所：秋田市　秋田キャッスルホテル

(3)　議　　題：

①　洋上風力発電設備等の航行安全について

②　洋上風力発電設備等の維持管理について

③　航行安全対策について

④　報告書構成案について

４　鳥取港港湾計画改訂に係る船舶航行安全対策調査

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」

寺本　定美　海上保安大学校　名誉教授
奥田　邦晴　国立研究開発法人水産研究・教育機構水産大学校　名誉教授
松田　洋和　一般社団法人日本船長協会　副会長
森脇啓治郎　境水先区水先人会　会長
眞木　　崇　境港海陸運送株式会社海運事業部　副部長兼船舶代理店課長
長野　達夫　日本興運株式会社　鳥取支店　支店長
松岡　達也　鳥取県漁業協同組合　賀露支所　販売課　課長
森本　賢治　有限会社鳥取マリーナ　代表取締役

(オブザーバー)

坂口　恒久　境水先区水先人会　副会長

「関係官公庁」

第八管区海上保安本部　交通部
境海上保安部
鳥取海上保安署
中国地方整備局　港湾空港部
中国地方整備局　境港湾・空港整備事務所
中国運輸局　鳥取運輸支局
鳥取地方気象台

4-1　第２回委員会

(1)　開 催 日：令和２年９月 15 日(火)
(2)　場　　所：鳥取市　ホテルモナーク鳥取
(3)　議　　題：
　①　港湾計画改訂の計画案(再出)について
　②　航行の安全性について
　③　航行安全対策について
　④　報告書構成案について

5　酒田港（本港地区）クルーズ客船入出港に係る航行安全調査

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」
　矢吹　英雄　東京海洋大学　名誉教授
　髙橋　　勝　海上保安大学校　名誉教授
　松田　洋和　一般社団法人日本船長協会　副会長
　松浦　安洋　酒田水先区水先人会　会長
　佐藤　　祐　酒田海陸運送株式会社　取締役営業部長
　中道　　暁　日本通運株式会社山形支店　酒田海運営業所長
　佐藤　昭浩　酒田曳船株式会社　海務監督
　川口　良助　酒田石油基地協議会　会長
　本間　昭志　山形県漁業協同組合　代表理事組合長
　齋藤　賢作　特定非営利活動法人山形県小型船舶安全協会　会長
「関係官公庁」
　第二管区海上保安本部　交通部
　酒田海上保安部
　東北地方整備局　港湾空港部
　東北地方整備局　酒田港湾事務所
　山形地方気象台
　酒田市地域創生部　商工港湾課

5-1　第１回委員会

(1)　開 催 日：令和２年９月 30 月（水）
(2)　場　　所：酒田市　ホテルリッチ＆ガーデン酒田
(3)　議　　題：
　①　クルーズ客船の入港計画について
　②　調査・検討の計画について
　③　酒田港の現況について
　④　航行環境について
　⑤　操船に係る基礎検討について
　⑥　操船シミュレーションによる検討について
　　（ビジュアル操船実験方案）

5-2　ビジュアル操船実験

(1)　実 施 日：令和２年 10 月 14 日（水）～15 日（木）
(2)　場　　所：東京都　株式会社ＭＯＬマリン　シミュレータ室

5-3　作業部会

(1)　開 催 日：令和２年 11 月 25 日(水)

(2)　場　　所：酒田市　ホテルリッチ＆ガーデン酒田

(3)　議　　題：

①　第１回委員会の質疑への対応について

②　操船の安全性について
　　（ビジュアル操船実験結果）

③　係留の安全性について

④　航行安全対策(案)について

６　境港港湾計画改訂に伴う船舶航行安全対策調査

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」
　寺本　定美　海上保安大学校　名誉教授
　奥田　邦晴　国立研究開発法人水産研究・教育機構水産大学校　名誉教授
　松田　洋和　一般社団法人日本船長協会　副会長
　森脇啓治郎　境水先区水先人会　会長
　藤原　　誠　境港海陸運送株式会社海運事業部　副部長兼船舶代理店課長
　西原　延和　株式会社上組境港支店　支店長
　景山　一夫　鳥取県漁業協同組合　代表理事組合長
　松本　美夫　漁業協同組合ＪＦしまね美保関支所　運営委員長
　寺本　良次　山陰中部地区小型船安全協会　事務局長
(オブザーバー)
　坂口　恒久　境水先区水先人会　副会長
「関係官公庁」
　第八管区海上保安本部　交通部
　境海上保安部
　中国地方整備局　港湾空港部
　中国地方整備局　境港湾・空港整備事務所
　中国運輸局　鳥取運輸支局
　鳥取地方気象台
　鳥取県県土整備部　空港港湾課
　島根県土木部　港湾空港課
　鳥取県境港水産事務所

6-1　第１回委員会

(1)　開 催 日：令和２年 12 月３日(木)
(2)　場　　所：米子市　ＡＮＡクラウンプラザホテル米子
(3)　議　　題：
　①　港湾計画改訂の計画案について
　②　調査・検討の計画について
　③　境港の現況について
　④　航行環境について

7　青森港大型客船入出港に係る航行安全調査

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」
　矢吹　英雄　東京海洋大学　名誉教授
　髙橋　　勝　海上保安大学校　名誉教授
　松田　洋和　一般社団法人日本船長協会　副会長
　成田　公美　青森港水先人会　水先人
　柏屋　　敬　日本通運株式会社青森支店　青森中央事業所　所長
「関係官公庁」
　第二管区海上保安本部　交通部
　青森海上保安部
　東北地方整備局　港湾空港部
　東北地方整備局　青森港湾事務所
　青森地方気象台

7-1　第１回委員会

(1)　開 催 日：令和２年 12 月 18 日(金)
(2)　場　　所：青森市　ホテル青森
(3)　議　　題：
　①　大型クルーズ客船の入港計画について
　②　調査・検討の計画について
　③　青森港の現況について
　④　航行環境について
　⑤　操船に係る基礎検討について
　⑥　操船の安全性(新中央ふ頭)について
　　（ビジュアル操船実験方案）

Ⅱ　会　務

Ⅱ－１　業務予定

内　　容		予　定　月　日
⑴	敦賀港港湾計画改訂に伴う船舶航行安全対策調査 第１回委員会	令和３年　２月 16 日
⑵	境港港湾計画改訂に伴う船舶航行安全対策調査 第２回委員会	令和３年　２月 25 日
⑶	日本海主要港湾における錨泊船舶の安全対策に関する調査研究（新潟港、佐渡島及び直江津港周辺海域） 第２回委員会	令和３年　３月　２日
⑷	酒田港（本港地区）クルーズ客船入出港に係る航行安全調査　第２回委員会	令和３年　３月　４日
⑸	令和２年度　第２回理事会	令和３年　３月 11 日
⑹	秋田県由利本荘市沖洋上風力発電開発計画に係る航行安全調査　第１回委員会	令和３年　３月 16 日
⑺	秋田県能代市・三種町及び男鹿市沖洋上風力発電開発計画に係る航行安全調査　第１回委員会	令和３年　３月 16 日
⑻	青森港大型客船入出港に係る航行安全調査 ビジュアル操船実験	令和３年　３月 18 日 ～ 19 日
⑼	会報第 132 号発行	令和３年　４月下旬

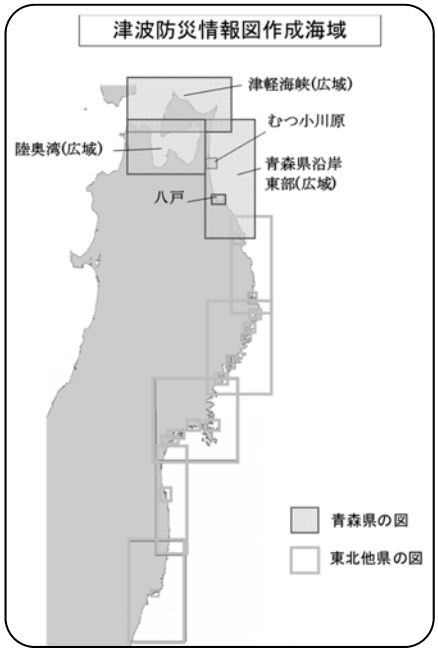
Ⅲ　海の安全情報

Ⅲ－１　青森県の海の津波ハザードマップ

第二管区海上保安本部　海洋情報部

海上保安庁は、船舶を津波の被害から守るため、地震による、海域における津波の特徴を示す海の津波ハザードマップである津波防災情報図を平成 19 年から整備しています。

令和２年６月 30 日に、青森県むつ小川原港、青森県沿岸東部（広域）、津軽海峡（広域）、陸奥湾（広域）の津波防災情報図を新たに作成し、青森県八戸港の津波防災情報図を更新しました。



各図は、津波の被害があることが予想される津波断層モデルでシミュレーションを行い、モデル毎に図を作成しています。（下表参照）

津波防災情報図は、船舶の津波避難マニュアルの作成など船舶津波対策協議会等ですでに活用されており、船舶の津波避難計画の策定や主要港湾の津波防災対策等に寄与することが期待されます。

津波防災情報図は第二管区海上保安本部の以下のアドレスで公開しています。

ホームページアドレス

https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN2/tsunami/index.html

海　域＼モデル	東日本大震災	三陸北部地震	明治三陸地震	宮城県沖地震
むつ小川原港	○	○	○	○
八戸港	○	○	○	○
陸奥湾（広域）	○	○	○	－
津軽海峡（広域）	○	○	○	－
青森県沿岸東部（広域）	○	○	○	○

津波防災情報図は、海上保安庁海洋情報部が所有する詳細な海底地形データと内閣府から公表された津波断層モデルを用いて、将来発生が懸念される大規模地震についての津波のシミュレーションを実施し、津波襲来時の海域における津波の挙動を図に示したものです。津波の流れや海上の水位上昇及び水位低下についての情報が描かれています。

注意：津波防災情報図に記載されている情報は、ある条件における津波の挙動の予測計算を行い想定したものであり、必ずしも実際の津波の挙動と一致するものではありません。

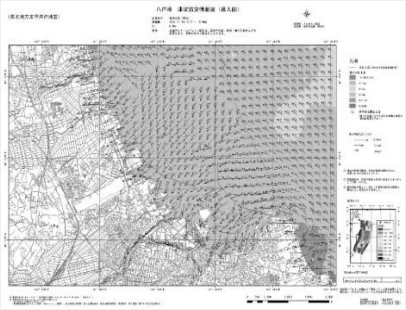
津波防災情報図の構成

進入図：最高水面を計算の基準面として、シミュレーションを実施したもの。津波が押し寄せてくる際の流速や水位上昇の情報が掲載されています。

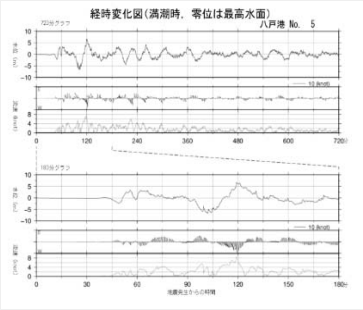
引潮図：最低水面を計算の基準面として、シミュレーションを実施したもの。津波が引いていく際の流速や水位低下の情報が掲載されています。

経時変化図：任意の点（経時変化図出力点）における水位変化及び流向・流速の時間変化をグラフで示したもの。進入図及び引潮図に掲載している経時変化出力点について経時変化図一覧として１冊にまとめています。

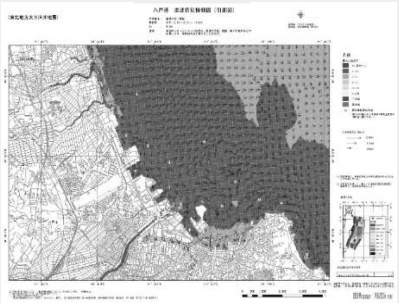
アニメーション：津波シミュレーションの結果を時間ごとの動画として、アニメーション化にしたもの。



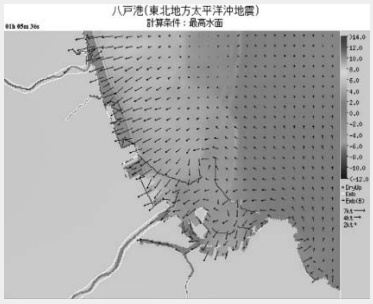
進入図



経時変化図



引潮図



アニメーション

Ⅲ－２　東北の冬の海　なめんなよ！！～冬期海難防止活動実施中～

第二管区海上保安本部交通部　航行安全課

第二管区海上保安本部では、この厳しい冬における主に走錨海難を防止するための活動「冬期海難防止活動」を 11 月１日より開始しましたので、この活動を紹介します。

東北の厳しい冬、特に日本海沿岸海域においては、強風が連吹し海上荒天となる日が多く、稀に急激に台風並みの風速になる、所謂爆弾低気圧の発生など、船舶海難の発生リスクが高まる傾向にあります。近年では、港外に錨泊していた大型船舶が暴風により走錨し消波ブロックへ乗揚げ船体損傷・油流出に至った海難や出港した大型船舶が風浪により荒天難航に陥り乗揚げに至った海難などが発生しました。

近年の管内における大規模海難の発生状況

このような海難を踏まえ、管内全域・全船を対象として、港長勧告の早期発出や海事関係者等に対し啓発活動を行うとともに、荒天時におけるＡＩＳ搭載船舶への適時・適切な情報提供を徹底して行い、特に貨物船やタンカー等による走錨海難等の未然防止を目的として、「冬期海難防止活動（１１月～３月まで)」を管区本部、各保安部署、海事関係者と連携のうえ展開しています。

この冬期海難防止活動では、平時の海難防止活動に加え、特に次の取り組みに重点をおき対応します。

●各部署における港長勧告の早期発出の徹底

⇒当管区では、数年前より、海域利用者との合意形成を経て、避難海域までの時間等を考慮した早期避難勧告の運用（概ね４８時間前ルール）を確立しております。官民一体となり、このルールを徹底順守し、荒天時に船舶の避難が遅れることのないよう適時・適切に港長勧告を発出します。

●東北の冬の海の危険性の周知徹底

⇒東北の冬の海は、厳しい自然環境下にあるということを改めて船員や海事関係者に認識してもらうべく、（公社）日本海海難防止協会協賛により作成したインパクト重視のポスターやリーフレット等（当庁初となる「なめ猫※」とのコラボレーション）にて、心に残る周知啓発活動を展開します。

保安部署職員による周知啓発活動

●ＡＩＳ運用官による主に日本海沿岸を航行する船舶及び陸奥湾等に錨泊する船舶の動静把握と注意喚起の徹底

⇒各港の避難勧告に合わせ、日本海沿岸で避泊しようと近づく船舶に対しては、ＶＨＦ等による注意喚起等を通じ、より安全な海域へ向かうよう促すほか、状況に応じ当直のＡＩＳ運用官を増員し、避泊地や港内に錨泊する船舶の走錨の発見と注意喚起を徹底します。

全国的には、台風シーズンは終わりましたが、当管区としては、この冬期の海難防止活動が事実上の本番です。幸いにも当管内で、平成２９年以降には、冬期の大規模海難は発生しておりません。

これまで準備してきたことを、管区本部、各保安部署、海事関係者一丸となって、そして今年度からは「なめ猫」とも連携のうえ、今季も「冬期海難ゼロ」を目指します。

※なぜ「なめ猫」か…

↓東北の冬の海をなめてほしくない
↓「なめてほしくない」を粋に言うと「なめんなよ」
↓「なめんなよ」といえば昔流行った「なめ猫」
↓猫といえば嵐を予測し船を安全な場所へ導く守り神（諸説あり）
↓錨は猫の爪形から生まれた字（諸説あり）
↓猫の爪のごとくしっかりと引っ掻いて（海底を）ほしい

➔やっぱ「なめ猫」でしょ

【周知啓発用 ポスター・リーフレット・ウェットティッシュ】

Ⅲ－３　モバイル版「海しる」に落雷位置情報が追加されました

第九管区海上保安本部海洋情報部　監理課

令和２年３月 31 日に運用がスタートしたモバイル版「海しる」について、会報第１３０号でご紹介しましたが、新たに落雷位置の情報が追加されました。

落雷位置情報は、過去２時間の落雷位置を「×」印で表示するもので、落雷位置だけではなく、発生の時期を色分け（濃赤～黄の６段階）により表示することで、時間的スケールも確認できるようになっています。雨の分布や風の強さ・向きなどと重ねて表示することで、各種作業の安全確保に有効に利用していただければと思います。

https://www.msil.go.jp/

出典：海洋状況表示システム
（https://www.msil.go.jp/）
情報提供元：国土地理院、気象庁、湘南工科大学

Ⅲ－４　海図「柏崎港」がリニューアル

第九管区海上保安本部海洋情報部　監理課

令和２年10月に海図 Ｗ１３９０「柏崎港」を刊行しました。

この海図は、平成25年６月以来、７年ぶりの改版となります。

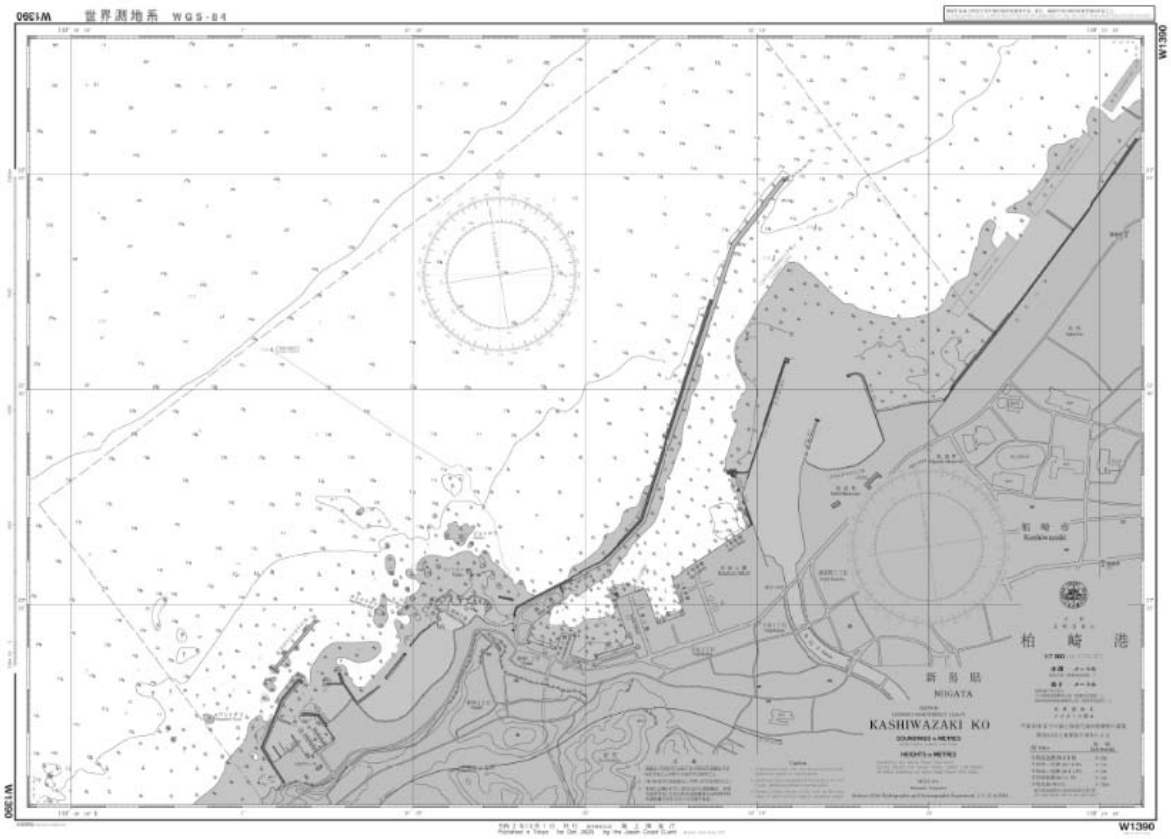
今回の改版により、主に以下の情報が更新されています。

・水深（港口付近、マリーナ付近）

・目標物（ホテル追加、展望台削除など）

・海岸線（砂地削除）

海図が改版されますと改版前の海図は廃版となり、航海に使用することができなくなりますので、ご注意ください。



［海図　Ｗ１３９０「柏崎港」］

Ⅲ－５　第九管区　海の安全通信　～海難０への願い～

第九管区海上保安本部交通部　安全対策課

第九管区海上保安本部では、船舶海難及び人身海難の抑止・減少並びに海難防止思想の普及啓発を図ることを目的として、「第九管区　海の安全通信　～海難０への願い～」を毎月１回下旬に発行しています。

内容は、海難に係る事故防止対策・統計分析、再発性・多発性の高い事象に係る注意喚起、事例から学ぶ教訓、自己救命策、海上交通三法のほか関係法令規則等を広く周知することとしました。

なお、これまでに発行した本通信は次のとおりです。

・２０２０年　７月号：遊泳中の事故防止“３つの安心カン”

・２０２０年　８月号：離岸流について

・２０２０年　９月号：台風対策は「早めの行動」が大事！

・２０２０年１０月号：釣りを安全に楽しむ“３つの確認”

・２０２０年１１月号：冬場に向けて漁船の海難事故増加　注意！！

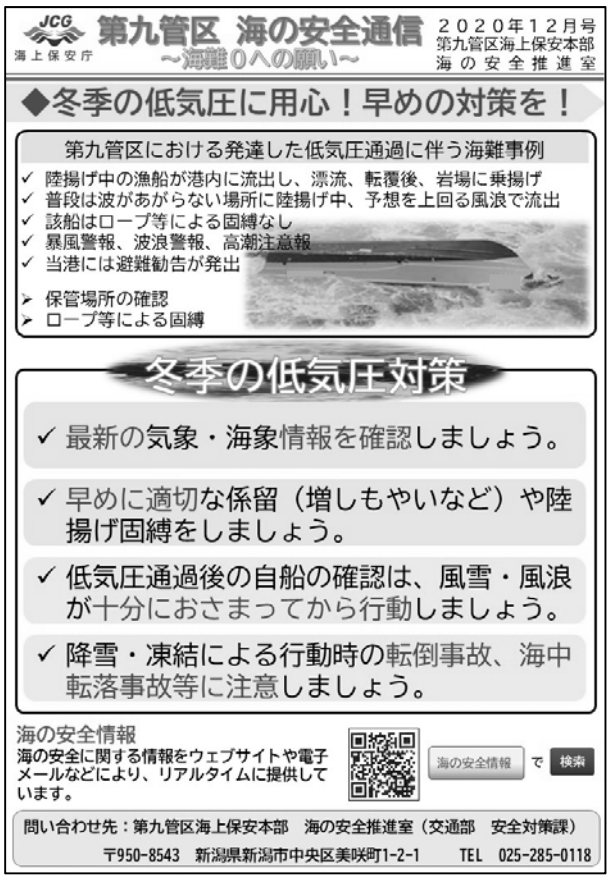
・２０２０年１２月号：冬季の低気圧に用心！早めの対策を！

本通信は下のＵＲＬ・二次元バーコードから入手可能で、ご自由に印刷配布やｗｅｂ拡散いただけます。

是非、社内や団体内、家族、友人などにもご紹介いただき、海を安全に楽しみ、ご利用いただきますようお願いします。

https://www6.kaiho.mlit.go.jp/

【最新号】


JCG 海上保安庁
第九管区 海の安全通信
～海難０への願い～
２０２０年１２月号
第九管区海上保安本部
海の安全推進室

◆冬季の低気圧に用心！早めの対策を！

第九管区における発達した低気圧通過に伴う海難事例
- ✓ 陸揚げ中の漁船が港内に流出し、漂流、転覆後、岩場に乗揚げ
- ✓ 普段は波があがらない場所に陸揚げ中、予想を上回る風浪で流出
- ✓ 該船はロープ等による固縛なし
- ✓ 暴風警報、波浪警報、高潮注意報
- ✓ 当港には避難勧告が発出

➢ 保管場所の確認
➢ ロープ等による固縛

冬季の低気圧対策
- ✓ 最新の気象・海象情報を確認しましょう。
- ✓ 早めに適切な係留（増しもやいなど）や陸揚げ固縛をしましょう。
- ✓ 低気圧通過後の自船の確認は、風雪・風浪が十分におさまってから行動しましょう。
- ✓ 降雪・凍結による行動時の転倒事故、海中転落事故等に注意しましょう。

海の安全情報
海の安全に関する情報をウェブサイトや電子メールなどにより、リアルタイムに提供しています。
海の安全情報 で 検索

問い合わせ先：第九管区海上保安本部　海の安全推進室（交通部　安全対策課）
〒950-8543　新潟県新潟市中央区美咲町1-2-1　TEL　025-285-0118

Ⅳ　寄 稿 欄

奈良「山の辺の道」の三大神社

元舞鶴事務所長　山本勝眞

奈良は、周囲を小高い山に囲まれた大変規模の大きな盆地となっています。

その奈良の東に連なる山裾沿いに、天理市から桜井市を経て奈良市につながる日本最古の道といわれる「山の辺の道」があります。

※案内図は、奈良県のウォーキングポータルサイト!!～ (pref.nara.jp)を参照

古事記・日本書紀や万葉集にもゆかりの地名が多いこの古道は、数多くの史跡や伝説が残る、古代歴史ロマンをたどる道として現在も親しまれています。

大神神社大鳥居

私は、残念ながら「山の辺の道」そのものは歩いたことがないのですが、数年前この道に沿った国道をとおり十分な雰囲気を味わったことがあります。

（この国道 169 号線は、ほぼ「山の辺の道」に沿っています。）

今回は、この「山の辺の道」沿いの神様について触れてみたいと思います。

あえてこの奈良の古道を紹介しようとする意図は、もちろん神様に係わる話だからです。以前この稿「大和神祖の謎」※という話の中で、饒速日尊（にぎはやひのみこと）という神様を紹介しましたが、その中の内容と重なる部分もありますのでお断りしておきます。

※「大和神祖の謎」は、会報第 93 号(平成 20 年 4 月)又は当協会ホームページ参照
「舞鶴市の神様たち 1/2」https://nikkaikb.com/files/libs/331/201912241113253434.pdf

この「山の辺の道」沿いには、古事記・日本書紀（二つをあわせて「記・紀」といわれています）が編纂される以前からの古い神社が数多く存在しますが、その中で「奈良三大神社」ともいわれている、もっとも由緒ある三つの神社について紹介したいと思います。

さて、まず第一に紹介する神社は、わが国で最も古い神社の一つといわれる「大神神社（おおみわ）」です。鎮座される場所は奈良県桜井市三輪で、JR 桜井線の三輪駅から歩いて５分。車でアクセスする場合は、西名阪自動車道路の天理インターチェンジを降り、国道 169 号線を南に 15 キロメートルほどいった場所です。巨大な鳥居が聳え立っているのですぐにわかります。

国道 169 号線からは、三輪参道入り口から大鳥居をくぐって 600 メートルほど行くと、こんもりと茂った森の中に参道が見えてきます。

（もちろん参道には車は入れません。）

参道を 200 メートルばかり歩くと、神社の御拝殿に到着します。

大神神社御拝殿

大変大きくきれいな御拝殿です。

大神神社のご説明によれば、御拝殿の奥（東側）にあたる三輪山に御祭神が鎮まる、つまりお山が御本殿という古い形の神社形式で、わが国のもっとも古い神社ということです。

御拝殿と三輪山との間には「三つ鳥居」という珍しい形の鳥居があるとのことですが、私は御拝殿から奥には立ち入ることができませんでした。

資料によると、なんでも明神型（笠木の両端が上方に反っている形）の鳥居を横に三つ連ねた形の鳥居ということです。

大神神社の主祭神は「大物主大神（おおものぬしのおおかみ）」で、三輪山の磐座（いわくら）に祀られておられ、第十代崇神天皇が、大田田根子（おおたたねこ）に命じて祀ったのが始まりとされています。

次に訪れた神社は、天理市にある大和神社（おおやまとじんじゃ）です。

大和神社鳥居

大和神社は、大神神社から北へ５キロメートルほどいったところに位置しており、国道 169 号線の「大和神社前」交差点から西へ折れ、200 メートルほどいくと、一の鳥居があります。（脇に駐車場がある）

なお、ここには「大和神社」の看板も立っています。

ここから道の両脇に木々が立ち並ぶ参道をさらに300メートルほどいくと神社に行き着きます。神社は、御拝殿とその奥に御本殿という並びになっていて、御本殿は３つの社からなり、中央に主祭神日本大國魂大神、両脇に八千矛大神・御歳大神がそれぞれ祀られています。

神社の由緒によると第十代崇神天皇がそれまで宮中で祀られていた神々を、皇女に命じて、この地に遷宮されたということのようです。

同神社の記録に創始の経緯について、「三座の神々は、上古、大和朝廷の守護神として宮中に祀られ給いしが、人皇十代崇神天皇は、いたく御神威を畏み給い、同六年、天照大神を笠縫邑に、当社の神々を市磯邑に遷宮あそばされ、皇女渟名城入姫尊を斎主として親しく祀らしめ給う」と書かれています。

大和神社拝殿

三大神社のうち最後に訪れたのは、やはり天理市にある石上神社でした。

大和神社から国道169号線を北へ、そして169号線をはなれ道を東へ行くと石上神社に行き着きます。

石上神社の鳥居

大和神社からは５キロメートルほどの距離になります。

神社は布留町というところにあり、神社境内の北側には布留川が流れています。

神社の由来では、初代神武天皇の時代は皇居の内で祀られていたご祭神を、第十代崇神天皇が、時の宰相の伊香色雄尊（物部の祖）に命じ、現地石上布留の高庭に祀らせたというのがこの神社の創始ということです。

その御祭神とは、布都御魂大神、布都斯御魂大神、布留御魂大神、宇摩志麻治尊４柱です。この神々は直系四代の神々です。

（なお、ほかに三柱の神々が祀られていますが、この方達はのちに合祀されたものと思われます。）

「布留高庭」といい、「布留川」という川の名、「布留町」という地名などからして、この４柱の中で中心となられる神様は「布留御魂大神」と思われます。

ここまで三大神社について、鎮座の場所、創始の経緯やご祭神などについて、紹介してきましたが、これらはいずれも第十代崇神天皇が、天災地変による飢餓や疫病の大流行などを鎮めるため、皇居内に祀られていた神々を、それぞれの地に遷宮創始されたということになっています。

石上神社本殿

以上三つの神社が奈良の三大神社ということです。

ところで、それぞれの神社の主祭神ともいえる、大神神社の「大物主大神」、大和神社の「日本大國魂大神」、そして石上神社の「布留御魂大神」の正体はどういう方なのでしょうか？

このことについて、歴史学者原田常次氏はその著「古代日本正史」において、古代に創始された神社の詳細な研究をもとに、明らかにされています。

饒速日尊像

そうした調査研究の結果、このお三方は、いずれも初代神武天皇ご即位（西暦 240 年ごろか）以前に大和（奈良）を支配されていた饒速日尊ということをつきとめられました。

それでは饒速日尊とはどんな方だったのでしょう。

実は、諡号（しごう）（おくりな）を「天照国照日子天火明奇甕玉饒速日尊（あまてらすくにてらすひこあめのほあかりくしみかだまにぎはやひのみこと）」と申される大変偉大な神様でした。

この方は、152 年前後に出雲の英雄素戔嗚尊の第五子として出雲でお生まれになり、素戔嗚尊とともに出雲・九州地方の統一をされ、その後 180 年ごろ素戔嗚尊の命により、

大王(おおきみ)の印天璽(あまつしるしとぐさのかんだから)十種瑞宝を授けられ、三輪山の麓で大王になられたという方なのです。

我が国の古代の歴史については、古事記・日本書紀の記述がもっとも権威ある歴史書として扱われ、これらの記述の内容をもとに上古日本の国の生い立ちが論じられています。

そして、各地の遺跡の発掘や発見された出土品などと照合するなどして真実に迫ろうという研究がされています。

ところが、記・紀の記述の中には、饒速日尊については偉大な神様であるにも関わらず、きわめて記述が少ないのみならず非常に影が薄い。

さらに、記・紀編纂以前の古社は、出雲系の神様を祀ったものが圧倒的に多数（一説には全神社の 80%とも・・・）であるのにも関わらず、主祭神は神話（いうなればおとぎ話のような・・・）という実体とはまるでかけ離れた内容で語られています。

私が、我が国の古代の出来事に興味をもったきっかけは、島根県石見地方に伝わる「石見神楽」ですが、神楽のストーリーは記・紀（なかでも特に古事記）の神話が中心です。

記・紀が日本の歴史書といわれても、神代の部分に関する限りはとても史実とは言い難い内容です。（もっとも記・紀の神話の部分もすべて作り話ということはできませんが・・・。）

ところが原田常次氏の著「古代日本正史」は、記・紀編纂時期より以前に創建された神社の調査研究をもとに古代史の謎に迫ったものになっています。

大変納得させられる論文です。

原田氏が、「倭大物主櫛甕玉尊」「彦天火明尊」など神名を手掛かりに、日本各地の神社を調査された結果、奈良三大神社の主祭神は「天照国照日子天火明奇甕玉饒速日尊」であると、結論されました。

記・紀では、これら偉大な神々の実体をなるべく隠したい何か理由があったのではないかと思われます。

実は「山の辺の道」に沿っては、ほかにも大変たくさんの神社や天皇陵、遺跡など、上古の重要な文化財がたくさん存在します。

特に大神神社には、数多くの摂社があって、それぞれ名だたる神々が祀られておられます。また、石上神社には「十束の剣」や「七支の剣」等の国宝もあります。一度ゆっくり訪ねてごらんになってはいかがでしょうか。

注　今回の投稿にあたっては、原田常治氏著「記・紀以前の資料による古代日本正史」の論文を参考にさせていただいています。

また、饒速日尊の画像は、唐松神社（秋田県大仙市）に伝わる画像を転写させていただきました。

Ⅴ　連 絡 事 項

会員名簿の変更

現在発行している会員名簿の変更です。（令和２年 12 月 20 日届出分まで）

○　指定代表者等の変更

頁	会　社・団　体　名	指定代表者職氏名	担当者職氏名
2	三和興業㈱	代表取締役社長 武　田　昭　彦	営業課長 佐　藤　幸　宏
3	宇部三菱セメント㈱	常務執行役員 東北支店長 菅　原　　祥	東北支店 物流・施設グループ課長補佐 木　下　裕　紳
4	旭カーボン㈱	代表取締役社長 石　井　龍太郎	サプライチェーン企画管理部 生産物流課 課長 斉　藤　　学
5	国際石油開発帝石㈱	国内エネルギー事業本部 直江津ＬＮＧ基地所長 田　中　敏　博	国内エネルギー事業本部 直江津ＬＮＧ基地 操業グループマネージャー 須　貝　　渉
〃	㈱近藤組	代表取締役社長 百　武　伸　晃	取締役安全部長 馬　場　祐　一
〃	全農サイロ㈱	新潟支店取締役支店長 秋　年　克　則	新潟支店営業部長 竹之内　秀　人
6	㈱谷村建設	代表取締役社長 卜　部　友　典	建設本部土木部次長 村　上　　満
9	㈱海	代表取締役社長 横　山　鐵　男	
10	北陸電力㈱	富山新港火力発電所 所　長 野　口　　光	富山新港火力発電所 業務課 久　郷　克　彦
11	へぐら航路㈱	代表取締役 梶　　文　秋	専務取締役 藤　田　健　市
13	日動海運㈱	代表取締役社長 鳥　羽　　学	
〃	日本原子力発電㈱	執行役員 敦賀発電所長 坂佐井　　豊	敦賀発電所 総務室経理マネージャー 山　崎　丹　生
〃	福井石油備蓄㈱	取締役福井事業所長 増　川　浩　章	福井事業所副所長 村　上　正　典

頁	会　社・団　体　名	指定代表者職氏名	担当者職氏名
14	舞鶴水先区水先人会	会　長 髙　橋　喜　彦	
〃	村川造船所㈱	代表取締役 村　川　正　弘	村　川　千恵子
15	境港海陸運送㈱	代表取締役社長 屬　　敏　宏	海運事業部副部長 兼 船舶代理店課長 藤　原　　誠
16	山陰臨海サービス㈱	代表取締役社長 秋　山　　信	常務取締役 岡　本　博　幸

○　代表者等の変更

頁	会　社・団　体　名	代表者職氏名	担当者職氏名
17	日本通運㈱青森支店	支店長 倉　内　秀　晴	青森中央事業所営業課長 今　　洋　介
〃	日本通運㈱秋田港支店	支店長 土　岐　静　一	海運課長 木　村　雅　也
18	中国電力㈱ 島根原子力発電所	所　長 岩　崎　　晃	総務課長 飯　塚　光　久

○　会社・団体名等の変更

頁	（旧）　会　社・団　体　名	（新）　会　社・団　体　名
14	村川造船所	村川造船所㈱

○ 住所等の変更

頁	会　社・団　体　名	住　　所
11	㈱金沢ポートサービス	〒920-0332 金沢市無量寺町リ 65 番地番 金沢港クルーズターミナル３階
14	村川造船所㈱	〒625-0086 舞鶴市字長浜 723－６

○　電話及びＦＡＸ番号の変更

頁	会　社・団　体　名	電　　話	ＦＡＸ
4	旭カーボン㈱	025-274-1215	025-271-4658

「天気図は海難防止の名ガイド」

「荒れる海止める勇気と待つゆとり」

会　　報　　第１３１号

令和３年１月発行

発 行 所　新潟市中央区竜が島１丁目９番２号
公益社団法人　日本海海難防止協会
〒950－0072
電　話（025）247－8531
ＦＡＸ（025）247－0316
E-mail nikkaikb@poem.ocn.ne.jp
URL　http://nikkaikb.com/
印 刷 所　株式会社 ウィザップ